

健全な保険数理に基づく責任準備金の確認について

第三分野における責任準備金の積立の適切性を確保するための考え方

第三分野における責任準備金積立の適切性を確保するために主務官庁の告示等に基づいて「ストレステスト」と「負債十分性テスト」を行い、その結果を保険計理人が確認しています。

「ストレステスト」は、あらかじめ設定した予定事故発生率が通常の予想を超える範囲でリスクをカバーしているかを確認するもので、ガン重点医療保険のがん保障部分および医療保障部分、長期就業不能所得補償保険(*1)の3つの契約区分で実施しています。「ストレステスト」で予定事故発生率の変動により責任準備金だけでは不足が生じるおそれがある場合は、保険金の支払いに備えるために危険準備金を積立てます。

「負債十分性テスト」は、「ストレステスト」で責任準備金だけでは不足があると判断された契約区分について、予定事故発生率の通常の予想の範囲での変動に加え、事業費等を考慮にいたした契約区分全体の将来収支分析による不足額の検証を行うものです。

ストレステスト、負債十分性テストにおける事故発生率の設定水準

「ストレステスト」は、契約区分ごとに次のとおり事故発生率を設定しています。

①ガン重点医療保険のがん保障部分および医療保障部分
過去5年間の実際の事故発生率を基準に保険金の増加を99%の確率でカバーする事故発生率の水準で行っています。

②長期就業不能所得補償保険(*1)

新規の引受けを停止し母集団が小さくなっているため、実際の事故発生率によらず、保険料算出に用いた事故発生率を基準に保険金の増加を99%の確率でカバーする事故発生率の水準で行っています。「負債十分性テスト」は、「ストレステスト」における99%の確率を97.7%の確率におきかえて実施します。

テストの結果

テストの結果は以下のとおりです。

| 契約区分 | ガン重点医療保険 | | 長期就業不能所得補償保険(*1) |
|-----------|----------------|----------------|-------------------|
| | がん保障部分 | 医療保障部分 | |
| ストレステスト | 責任準備金だけで十分である。 | 責任準備金だけで十分である。 | 責任準備金は不足するおそれがある。 |
| 危険準備金の積立額 | 積立不要 | 積立不要 | 0.03百万円 |
| 負債十分性テスト | 実施不要 | 実施不要 | 実施 |
| 責任準備金の追加額 | | | 3.98百万円 |

長期就業不能所得補償保険については、母集団が小さく、事故発生率の変動に対応することおよび事業費をまかなうことができないため、将来の債務の履行にそなえて、危険準備金0.03百万円と追加責任準備金3.98百万円を積立っています。

(*1) 長期就業不能所得補償保険については、2003年1月をもって新規の引受けを停止しました。

ソニー損保の経営

CSR（企業の社会的責任）への取組み

当社は、1999年秋の営業開始時から社会の一員としてCSR（企業の社会的責任）を自覚し、企業の成長とともに一層その自覚を強めてきました。当社の事業活動は、多くのステークホルダーの皆様のご支持によって成り立っているからこそ、CSRに真剣に取り組む、ステークホルダーの皆様に提供する価値を高めていくことが使命であると考えています。

現在、当社では事業の根幹となる「損害保険事業の適切な遂行（商品・サービスの提供）」をはじめ、「コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス」「社会貢献活動」「環境保全活動」などに取り組んでいます。

損害保険事業の適切な遂行（商品・サービスの提供）

損害保険制度は、暮らしや企業の活動において「小さな負担（多数の人々が保険料という形でお金を出し合う）で、いざという時の大きな安心（出し合ったお金から補償を受ける）を得ることができる」という、相互扶助の精神に基づいたしくみです。このしくみが適切に運用されること、つまり損害保険事業を適切に遂行することが、私たち損害保険会社の社会的責任の根幹です。そのためには、お客様のニーズにお応えできる、お客様に信頼・安心していただける商品やサービスを提供していくとともに、お客様の声を傾聴し商品・サービスに反映させていくことが最も大切であると考えています。

☞ お客様にわかりやすくお伝えするための取組みや、お客様の声を業務に活かすための取組みについては、12～16ページをご参照ください。

☞ 取扱商品・サービス体制については、17～27ページをご参照ください。

コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス

高い倫理観を持ち、事業活動のあらゆる領域において、コンプライアンスの徹底が図れるような教育の実施や体制構築に努めています。また、個人情報管理の徹底や、人権啓発教育にも取り組んでいます。

☞ コーポレート・ガバナンスやコンプライアンスなどについては、28～33ページをご参照ください。

社会貢献活動

地域・社会の一員として、社会貢献活動を会社が取り組むべき重要課題のひとつと捉え、今後も取り組みを拡大していきます。

保険商品を通じた社会貢献活動

ガン重点医療保険SURE〈シュア〉では、すべての契約に骨髄ドナーサポート特約を自動で組んでいます。この特約は、追加保険料を設定せずに、保障を受けられる方が骨髄提供者（ドナー）として骨髄幹細胞採取手術を受けられた場合に、所定の保険金をお支払いするものです。また、ウェブサイトや商品パンフレットにおいても、同特約について説明するコーナーを設け、骨髄移植に関する認知向上を目指しています。

☞ 骨髄ドナーサポート特約については、17ページをご参照ください。



骨髄ドナーサポート特約を説明するページ

社員参加型の社会貢献活動

毎月定期的実施する活動のほか、年に数回、期間限定の活動にも取り組んでいます。

■募金(毎月)

社内に「募金箱」を設置し、財団法人日本ユニセフ協会に毎月募金をしています。2011年2月には、「義理チョコ募金」と題して、「贈ったつもり」で、チョコレートなどを購入する代わりに募金をする取り組みも実施しました。

また、2011年3月には、毎月のユニセフ募金を一旦休止し、東日本大震災により被害を受けられた方への義援金として、ソニー株式会社がソニーグループ社員を対象として実施したマッチングギフトのプログラムに参加しました。

☞ 東日本大震災により被害を受けられた方を支援するための取組みや対応については、10ページをご覧ください。



義理チョコ募金を呼び掛ける社内ポスター

■使用済み切手の収集(毎月)

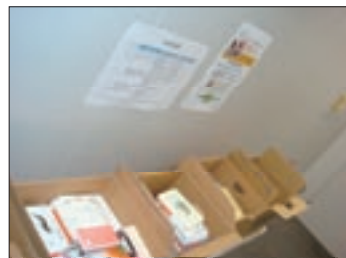
郵便物に貼られた切手を「使用済み切手回収箱」で収集し、海外医療協力団体へ送付しています。

■中古図書の寄付(2010年12月～2011年1月)

ソニー株式会社がソニーグループ会社やその従業員を対象に実施する「南アフリカ移動図書館プロジェクト」に当社も参加しました。

社内や社員の自宅で不要になった図書を収集し、当社全体で1,800冊を超える本を寄付しました。

☞ 南アフリカ移動図書館プロジェクトについては、ソニー株式会社のウェブサイトをご覧ください。
(http://www.sony.co.jp/SonyInfo/csr/ForTheNextGeneration/contentlist/mobile_Library_project/)



中古図書回収の様子(本社ビル)

環境保全活動

地球環境保護がすべての企業にとって重要な責務であるとの認識に立ち、環境保全にも取り組んでいます。当社では、保険という目に見えない商品を扱ううえで、契約内容の確認や手続書類を郵送するときなどに紙や電気といった資源を消費している事に加え、主力商品である自動車保険が二酸化炭素(CO₂)を排出する自動車を前提としていることなどから、環境への負担軽減を目指した取組みを進めています。環境方針を定め、全社で環境保全活動に取り組むとともに、社外に向けた働きかけも行っています。

ソニー損保の環境方針

【理 念】

当社は持続可能な社会の実現に向けた「ソニーグループ環境ビジョン」を踏まえ、企業活動のあらゆる面で環境保全に配慮して行動します。

【環境方針】

1. 環境マネジメントシステムの運用により、事業活動およびサービスを通じて環境に与える影響を的確に捉え、環境負荷の低減を図るとともに事業の継続的な改善に努めます。
2. 環境目的・目標を設定し全社で環境管理を推進するとともに、継続的な見直しを行います。
3. 事業活動を行う上で適用を受ける環境関連の法律、条例を遵守します。
4. この方針を達成するため、内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの維持向上を図ります。
5. 社内における環境教育・社内外広報活動を実施し、環境方針の周知徹底、環境保全に関する意識向上を図ります。

4

ソニー損保が取組む環境保全活動

■ 環境マネジメントシステム

ソニー損保を含むソニーグループでは、全世界共通の環境マネジメントシステム(Global Environmental Management System)にて環境活動を行っており、国際規格であるISO14001のグローバル統合認証を取得しています。ソニー損保では、本社、蒲田、大阪および札幌の主要4事業所をISO14001の認証対象としており、電力使用量およびコピー用紙使用量の低減目標値を定めた省エネ・省資源活動や、事務用品におけるエコ商品比率を高めるグリーン購入の推進を行っています。



ISO14001認証書・認証書の付属書

■ グリーン電力証書システム

2007年度から「グリーン電力証書システム」(*1)を導入しています。導入以降、毎年購入量を増やし、2010年度は年間70,000kWhの太陽光発電によるグリーン電力を購入しました。スタートからの4年間で購入したグリーン電力は220,000kWhで、約87トン(*2)のCO₂排出削減に寄与したことになります。今後も継続的にグリーン電力を購入・利用していく計画です。



当社はグリーン電力証書システムに参加しています。

(*1) 風力やバイオマス(生物資源)、太陽光などの地球温暖化防止、CO₂の排出削減に有効な自然エネルギーにより発電された電気の環境付加価値を「グリーン電力証書」というかたちで購入するものです。

(*2) CO₂排出量算出にあたっての排出係数(t-CO₂/kWh)は、2007年度は0.000339、2008年度は0.000425、2009年度は0.000418、2010年度は0.000384としております。

■ お客様とともに取組む環境保全活動

■ 幼稚園にソーラー発電所を☆プログラム (NPO法人そらべあ基金への寄付活動)

自動車保険の「くりこし割引」の仕組みを活用したプログラムで、ご契約者が予想より走らなかった距離の総合計100kmにつき1円を、太陽光発電設備の設置費用として「NPO法人そらべあ基金(「そらべあ基金」)(*)」に寄付しています。「そらべあ基金」では、ソニー損保からの寄付金を、全国の幼稚園や保育園を対象にした太陽光発電設備「そらべあ発電所」の設置などに充当していきます。

ソニー損保のご契約者は、ほんの少しクルマの使い方を見直すことで、地球環境への負荷を軽減することができます。実際に走った距離が予想年間走行距離を下回れば、「くりこし割引」で翌年の保険料が抑えられるだけでなく、CO₂排出量も減り、太陽光発電設備「そらべあ発電所」の設置にも貢献することができます。

同プログラムにより、2010年度には3基の「そらべあ発電所」を幼稚園・保育園に設置しました。

*ソニー損保は、「そらべあ基金」が推進する「そらべあスマイルプロジェクト」のサポーターとして「幼稚園にソーラー発電所を☆プログラム」を実施しています。同プログラムの進捗は「エコロジーサイト」(<http://ecology.sonysonpo.co.jp/>)で報告しています。

(*)「NPO法人 そらべあ基金」は、地球温暖化防止をミッションにして、CO₂を排出しないグリーン電力の普及活動などを行っています。「そらべあ基金」のウェブサイト(<http://www.solarbear.jp/>)もご参照ください。

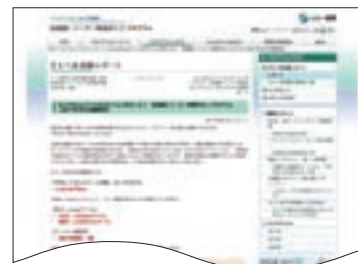
☞ 「くりこし割引」については、17ページをご参照ください。

■ エコロジーサイト

お客様参加型のウェブサイトで、ソニー損保の自動車保険のご契約者を対象とした「幼稚園にソーラー発電所を☆プログラム」に関するコーナーに加え、ご契約者以外も参加できる「みんなのぷちECO」コーナーなどを設置し、小さなECOをたくさん集めて大きなECOにする取組みを展開しています。

*エコロジーサイトでは、ソニー損保の環境保全への取組みなども紹介しています。

☞ エコロジーサイトについては、13ページをご参照ください。



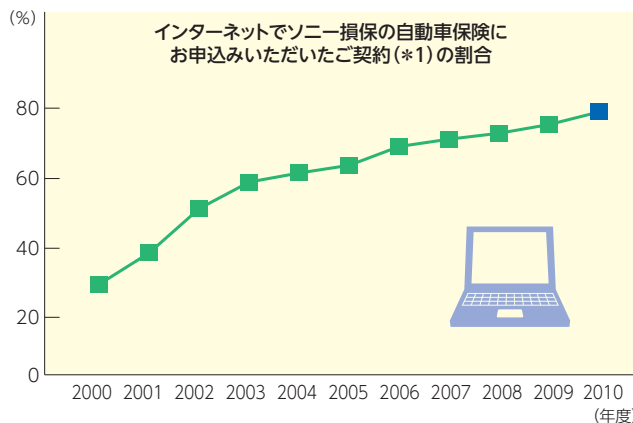
「幼稚園にソーラー発電所を☆プログラム」の進捗状況をお伝えするページ



*上記のプログラム内容やその継続については、随時見直してまいります。

■ 各種契約手続のペーパーレス化

紙資源の節約、郵送にかかるCO₂排出量の削減を目的として、各種契約手続のペーパーレス化を推進しています。2011年6月現在、自動車保険と海外旅行保険においてインターネットによる契約申込を可能とすることで、紙の申込書などの作成・郵送の省略を実現しています。今後、さらなるペーパーレス化に取組みます。



*2000年度については、継続契約が発生した2000年8月以降の数値です。

(*1) 新規と継続のご契約を合算した割合です。

当社独自の取組みのほか、社団法人日本損害保険協会(以下、損保協会)の一員として、「社会の安全・安心への貢献事業」に参画し、損保業界としての環境保全活動・社会貢献活動にも取組んでいます。損保協会での主な取組みは以下のとおりです。詳しくは同協会のウェブサイトをご覧ください。

■ 環境問題への取組み <http://www.sonpo.or.jp/eco/index.html>

■ 防災・自然災害対策、交通安全対策、犯罪防止対策 <http://www.sonpo.or.jp/protection/disaster/>